

昭和五十七年六月招集

第二回館山市議會定例会會議錄

館山市議會



# 目次

○第一号(六月十八日)

開 会	五
議長の報告	六
議案の配付	六
会議録署名議員の指名	六
会期の決定	六
会議日程の決定	六
議案第三十号ノ議案第三十四号(提案理由の説明)	六
延 会	一〇
本日の会議に付した事件	一一
○第二号(六月二十一日)	
開 議	一五
行政一般通告質問	一五
石井武敏君の質問、当局の応答	一五
神田守隆君の質問、当局の応答	二七
石井輝久君の質問、当局の応答	三九
栗原一雄君の質問、当局の応答	五一
散 会	五八
本日の会議に付した事件	五八
○第三号(六月二十二日)	
開 議	六一
議案第三十号	六一
神田守隆君の質疑、当局の応答	六二

委員会付託の省略

神田守隆君の討論

採決

議案第三十一号ノ議案第三十三号

神田守隆君の質疑、当局の応答

石井武敏君の質疑、当局の応答

古賀礼四郎君の質疑、当局の応答

委員会付託

議案第三十四号

神田守隆君の質疑、当局の応答

安西益男君の質疑、当局の応答

委員会付託

日程の追加・議案第三十五号

説明

委員会付託

延 会

本日の会議に付した事件

○第四号(六月二十五日)

開 議

議案の配付

議案第三十一号、議案第三十五号、議案第三十四号

総務委員会委員長報告

神田守隆君の討論

栗原一雄君の討論

採決

六四
六四
六五
六五
六五
六五
六九
七四
七六
七六
七六
七六
七九
八一
八一
八一
八二
八二
八二
八三
八七
八七
八八
八八
八九
九〇
九〇

議案第三十二号	九一
文教民生委員会委員長報告	九一
神田守隆君の討論	九二
採決	九三
議案第三十三号	九三
建設経済委員会委員長報告	九三
採決	九四
請願第一号	九四
総務委員会委員長報告	九四
採決	九五
日程の追加・発議案第三号	九五
説明	九五
委員会付託の省略	九六
採決	九六
発議案第四号	九六
説明	九六
石井輝久君の質疑	九六
委員会付託の省略	九七
採決	九八
勳 議	九八
日程の追加・議員定数調査特別委員会の設置、付託	九八
日程の追加・会期延長について	九九
延 会	九九
本日の会議に付した事件	九九
○第五号（六月二十六日）	

開 議	一〇三
議案第三十六号	一〇三
説明	一〇三
委員会付託の省略	一〇四
採決	一〇四
議員定数調査特別委員会委員の選任	一〇四
日程の追加・常任委員会委員の選任	一〇四
日程の追加・副議長辞職について	一〇五
流山源次郎君のあいさつ	一〇六
日程の追加・副議長の選挙	一〇六
副議長のあいさつ	一〇七
閉 会	一〇七
本日の会議に付した事件	一〇七

第二回館山市議定会定例会會議録（第一号）



昭和五十七年六月十八日(金曜日)午前十時

二、館山市役所議場

出席議員 二十五名

一番	神田 守隆	二番	石井 謙
四番	横溝 功	五番	福原 勤
七番	古賀 礼四郎	八番	石井 昌治
九番	松下 正己	十一番	林 豊
一二番	栗原 一雄	一三番	近藤 好雄
一四番	渡辺 昭夫	一五番	伊藤 幸太郎
一七番	黒川 平治	一八番	流山 源次郎
一九番	石井 輝久	二〇番	石井 武敏
二一番	吉田 勇治郎	二二番	藤田 益治
二三番	菊井 敏博	二四番	和田 一郎
二五番	五十嵐 昇	二六番	伊賀 多朗
二七番	石井 正	二八番	安澤 徳順
二九番	安西 益男		

出席議員 一名

三〇番 山口 康

出席説明員

市長	半澤 良一	助役	小倉 澄男
収入役	太田 博雄	総務部長	鶴岡 卓樹
民生部長	鈴木 力	経済部長	山田 俊康
水道課長	吉田 清一	市長公室長補佐	脇田 元始
教育委員長	古宮 幸八郎	教育委員長	安田 豊作
選挙管理委員長	官澤 茂	選挙管理委員長	蜂谷 達二
選挙事務代理者		事務局書記長	

監査事務局長 飯田 忠男  
農業委員長 庄司 徹  
事務局局長 高尾 豊  
事務局長補佐 熊谷 吉雄  
書 記 兵藤 恭一  
書 記 鈴木 哲  
書 記 石井 一夫  
書 記 嶋田 範夫

一、議事日程(第一号)

昭和五十七年六月十八日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 会議日程の決定

日程第四

議案第三十号	館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について
議案第三十一号	館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
議案第三十二号	館山市立博物館設置条例の制定について
議案第三十三号	館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例の制定について
議案第三十四号	昭和五十七年度館山市一般会計補正予算(第一号)

開 会 午前十時八分開会

○議長(林 豊君) 本日の出席議員数二十五名、これより昭和五

十七年第二回市議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

## 議長の報告

○議長（林 豊君） 本定例会議案審査のため、地方自治法第二百一十一條の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので、御了承願います。

なお、監査委員より二月乃至五月実施の監査結果並びに市長から財団法人館山市開発公社の経営状況説明書、財団法人館山市環境保全公社の経営状況説明書及び西岬地区通学用道路新設事業に係る繰越明許費繰越計算書が報告されております。それぞれお手元に配付の印刷書により御了承願います。

## 議案の配付

○議長（林 豊君） ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

## 会議録署名議員の指名

○議長（林 豊君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。  
一四番議員渡辺昭夫君、二二番議員藤田益治君、以上両君を指名いたします。

## 会期の決定

○議長（林 豊君） 日程第二、会期の決定を行います。

本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は、本六月十八日から六月二十五日までの八日間ということであります。

お諮りいたします。会期を八日間と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって会期は六月十八日から六月二十五日までの八日間と決定いたしました。

## 会議日程の決定

○議長（林 豊君） 日程第三、会議日程の決定を行います。

お諮りいたします。お手元に配付いたしました会議日程表は本定例会の大体の日取り予定であります。議会運営協議会の意見により作成いたしました。

本定例会をおおむねこの会議日程表により運びますとともに、その間、議案の追加または議事の都合等によりまして、その都度これを改めることにして、大体このようにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって会議日程は決定いたしました。

## 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第四、議案第三十号乃至議案第三十四号の各議案を一括して議題とし、これより各議案の提案理由の説明を



求めます。

## 提案理由の説明

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 本日、ここに第二回市議会定例会を招集いたしました、当面する諸案件について御審議をお願いすることといたしました。

その前に一言お祝いの言葉を申し上げたいと存じます。

このたび、千葉県市議会議長会、関東市議会議長会及び全国市議会議長会から、藤田益治議員、五十嵐昇議員、伊賀多朗議員、石井正議員がそれぞれ永年勤続自治功労の表彰の栄に浴されましたことは誠に御同慶に堪えません。

ここに、日頃の御尽力に対し感謝いたしますとともに心からお祝いを申し上げ、今後とも市政発展のため御支援、御協力賜りますようお願い申し上げます。

さて、本日、提案いたします案件は、条例案件三件、一般議案一件及び補正予算一件であります。

まず、議案第三十号館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認についてであります。去る三月、地方税法及び国有資産等所在市町村交付金及び納付金に関する法律の一部を改正する法律案が国会において可決、三月三十一日公布、四月一日から施行されることとなりました結果、館山市市税条例もこの法律改正に合わせて急遽改正する必要が生じたため、同条例の一部改正を地方自治法第七十九条の規定により専決処分をいたしましたので、議会に報告し、承認を求めようとするものであります。

本年度の市税条例改正の主な内容は、第一に個人市民税についてであります。低所得者層の負担軽減を図るため、昭和五十七年度分の個人市民税の所得割の非課税の範囲を引き上げたことであります。所得金額が二十七万円に本人、控除対象配偶者及び扶養親族の合計数を乗じて得た金額に、控除対象配偶者または扶養親族を有する場合には、九万円を加えた金額以下である者を非課税とすることとしました。なお、この結果、夫婦二人の標準世帯の給与所得者の非課税限度額は百八十八万五千円となります。改正前は百七十五万七千円でありました。

個人均等割のみを課すべき者に係る非課税基準の基礎となる金額を十九万円から二十万円に引き上げました。

また、租税特別措置法の改正に対応して、土地等を譲渡した場合の長期譲渡所得に係る市民税の課税の特例措置について所要の改正を行うとともに、寡夫控除を新設することといたしました。

第二に、固定資産税及び都市計画税についてであります。土地に係る昭和五十七年度から昭和五十九年度までの各年度分の固定資産税及び都市計画税については、評価替えに伴う税負担の調整を図るため、負担調整率を用いて課税標準額を算出することといたしました。

第三に、特別土地保有税についてであります。特別土地保有税の保有分の課税期間を十年といたしました。ただし、昭和五十七年四月一日前に取得された土地については、保有期間が十年を超えるものも従来どおり課税することといたしました。

以上が今回の改正の主なものであります。このほか地方税法の一部改正に基づきまして所要の改正をいたしました。詳細につ

きましては、説明資料により御了承賜りたいと存じます。

次に、議案第三十一号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてありますが、まず本年度本算定の基礎となります調定見込額の算出について御説明いたします。

昭和五十六年度国民健康保険特別会計は、出納閉鎖の結果六千六百万余円の差引残金を生じ、昭和五十七年度へ繰り越すことになりました。この繰越金の処分でございますが、すでに当初予算において三千万円を計上し、税の軽減を図っているところでありますが、残り三千六百万余円のうち、三千万円を税の軽減に、六百万余円を本年度給付費の財源留保に充てたいと考えております。

この結果、当初予算で計上しました現年度課税分八億九千三百四十八万二千円を八億六千三百四十八万二千円とし、収納割合を勘案いたしまして調定額を九億千八百五十九万八千円と見込んだわけであります。

本年度の本算定による調定見込額を九億千八百五十九万八千円とするには、課税限度額を超える切捨額三億七百七十七万二千円と低所得者の国民健康保険税を減額する国民健康保険税条例第十二条の軽減額二千六十二万九千円、これらの額を見込み、合計十二億四千六百三十九万九千円を課税してはじめて九億千八百五十九万八千円の調定が可能ということになるわけであります。

この課税総額を所得割額、資産割額、被保険者均等割額及び世帯別平等割額に配分し、課税するわけでありますが、所得割の算出基準となる市民税所得割総額は二億五千五百六十六万五千円、資産割の算出基準となる固定資産税総額は二億八千五百九十万円、被保険者総数は二万五千四百七十一人、被保険者世帯総数

は九千四百五十九世帯で、これらをあん分の基準とし、本年度の配分割合で試算し、あん分率を決定するわけでありますが、この結果所得割百分の二百三十五、資産割百分の五十、被保険者均等割一万二千九百六十円、世帯別平等割一万八千二百四十円となります。

以下、改正条例について順次御説明いたします。

第二条の改正は、課税限度額を現行の二十六万円から二十七万円に、第三条の改正は、所得割の税率について百分の二百二十五を百分の二百三十五に、第五条の改正は、被保険者均等割額一人につき一万八百元を一万二千九百六十円に、また第五条の二の改正は、世帯別平等割額一世帯につき一万六千二百円を一万八千二百四十円にそれぞれ引き上げようとするものであります。

第十二条の改正は、低所得者層に対する減額の規定であります。が、一号該当については、被保険者均等割額一人につき五千四百円を六千四百八十円に、世帯別平等割額一世帯につき九千円を九千七百二十円に引き上げ、二号該当については、被保険者均等割額一人につき三千六百元を四千三百二十円に、世帯別平等割額一世帯につき六千円を六千四百八十円に引き上げようとするものであります。

また、二号減額の基準となる被保険者の数に応じて加算する金額を十七万五千円から十八万円に引き上げようとするものであります。

第十二条の二の改正は、新たに加える条文であります。これは館山市市税条例の改正により個人の市民税について均等割が非課税となる者は市民税申告書の提出を要しないこととしたので、

当該納税義務者は国民健康保険税の申告書を提出することとするものであります。

実際の実務については、現在も市民税申告、国保税申告を同時に受け付けていまして、それを変更するものではありませんが、条文をそれぞれの条例準則にない、整備したものであります。

附則第七項の改正は、昭和五十六年度限りの読み替え規定を昭和五十七年度限りの読み替え規定に改正しようとするものであります。その内容は、個人市民税について、基礎控除額は二十二万円に据え置かれていたので、国保税の減額の基準に用いる基礎控除相当額を昭和五十七年度は二十四万円に引き上げ、低所得者層の減額対象の幅を引き上げようとするものであります。

附則については、その施行期日を公布の日からとし、適用区分については昭和五十七年度分から適用するものとし、昭和五十六年度分までの国民健康保険税については従前のとおりとするものであります。

次に、議案第三十二号館山市立博物館設置条例の制定についてであります。博物館法第十八条の規定により館山市立博物館設置条例を制定しようとするものであります。

この博物館は、市の歴史、芸術、民俗等に関する資料を収集し保管して、これらの資料に関し調査研究を行い、市民に地域の歴史と文化財に親しむ機会を提供し、社会教育の場とするともに、学校教育にも役立てようとするものであります。

施設の名称は館山市立博物館とし、市民の多く訪れる館山市城山公園内に設置しようとするものであります。

なお、開館日は昭和五十七年十月三十一日を予定しております。

次に、議案第三十三号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてであります。今回公営住宅法施行令の一部改正に伴い建設省から公営住宅の収入基準等の改定通知がありましたので、それに基づきまして所定の改正を行うため、条例の一部を改正しようとするものであります。

改正の主なもの、公営住宅の入居基準と収入超過基準に係る割増賃料に関するものであり、昭和五十七年八月一日から適用するものであります。

次に、議案第三十四号昭和五十七年度館山市一般会計補正予算（第一号）であります。歳入歳出予算の補正といたしまして歳入歳出それぞれ一億八千五百八十五万六千円を追加し、総額九十四億千六百三十三万八千円としようとするものであります。

歳出の内容といたしまして、衛生費では、旧し尿処理施設藤原処理場用地について、崩落の危険が生じていることから、この防止策としての擁壁工事費として二百五十四万六千円、当初予算におきまして四千万円を計上いたしました。最終処分場用地購入費につきまして、取得面積の増等により五百七十三万八千円、またかねてからの懸案でありましたごみ処理施設建設につきまして、本年度に入り国庫補助金の内示があり、補助事業としての施行が確定いたしましたので、昭和五十七年度から昭和五十九年度までの三カ年継続事業として総額十七億千万円を予定し、実施するための初年度分の建設費一億六千八百万円を計上いたしました。

農林水産業費では、水産業費におきまして、千倉町千田沖で座礁いたしました貨物船の重油等の流出による被害対策といたしまして、ひじき漁業再生産対策事業費補助金として三百三十四万円。

教育費では、西岬地区の小学校統合に伴う西岬小学校への通学バス運転手及び添乗員に対する賃金その他の運行経費として、五百八十万三千円等の追加をお願いするものであります。

以上、歳出の主なものであります。これらの財源としまして、国、県支出金、地方債の特定財源で一億三千八百八十八万九千円、その他を繰越金をもって充当しようとするものであります。

なお、このほかに継続費の補正及び地方債の補正をお願いするものであります。

以上、各議案に対する提案理由について御説明申し上げましたが、なお館山市立博物館本館建設工事に係る工事請負契約の締結について並びにごみ最終処分場用地に係る財産の取得についてを追加議案として上程をお願いする予定であります。

何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明を終わります。

さて、終わりに一言お礼とごあいさつを申し上げます。

私は、本年十二月をもちまして現任期を終えるわけでございますが、この任期中、いささかなりとも市政発展のために寄与できましたことは、ひとえに議員各位の御指導と御協力のたまものと厚く感謝の意を表する次第でございます。

顧みますれば、昭和四十九年市長に就任当初は、ときあたかもオイルショック後で、わが国経済は高度成長より低成長へと転換し、国、地方を通じ財政は悪化し、本市にとりましても極端な財政危機に直面しておりまして、私はこの逼迫した市財政の再建に向かつて努力をしてまいりました。

その結果、今日の健全財政の基盤を確立するとともに、積極的

な行財政を運営することができました。

このことは、議員の皆さま方をはじめ、市民各位並びに市職員の多大な御協力によるものでございまして、この機会に改めて心から感謝を申し上げます。

この間にありまして、上水道の拡張、教育施設の整備、衛生センターの建設、博物館分館の建設等を通じ、市民福祉、市民生活の向上、教育、文化の進展にいささかなりとも寄与できたと確信いたしております。

しかしながら、現在、館山市政の上で、館山駅周辺の市街地整備、国道一二七号バイパス、都市計画道路、国鉄内房線の複線化の促進、上、下水道の整備促進等々、実施しなければならぬ問題が山積いたしており、これら諸問題の解決は私に課せられた責務であると改めて痛感いたすものでございます。

こうした使命感に立って、私は市政の発展、市民生活向上のため、さらに一層挺身いたすべく次期市長選挙に際し市民に信を問う所存でございますので、皆さま方の変わらぬ御指導、御協力を賜りたくお願いを申し上げます。

今回の定例会にあたり議員各位に感謝申し上げますとともに、あわせて所信を表明いたしました次第でございます。（拍手）

○議長（林 豊君） 以上で提案理由等の説明を終わります。

延 会 午前十時三十分延会

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明六月十九日及び二十日は議案調査のため休会、次会は六月二十一日午前十時開会とし、その議事は通告による行政一般質問を行います。

この際申し上げます。各議案の質疑通告の締め切りは六月二十一日正午まででありますので申し添えます。

○今日の会議に付した事件

一、 会議録署名議員の指名

二、 会期の決定

三、 会議日程の決定

四、 議案第三十号乃至議案第三十四号